

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(12)特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2001年10月11日 (11.10.2001)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 01/74488 A1

(51) 国際特許分類:
37/20, 39/16 // C07B 61/00

B01J 49/00, C07C

(72) 発明者: および

(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 猿渡鉄也
(SARUWATARI, Tetsuya) [JP/JP]. 岩原昌宏 (IWA-
HARA, Masahiro) [JP/JP]; 〒745-0843 山口県徳山市
新宮町1番1号 Yamaguchi (JP).

(21) 国際出願番号: PCT/JP01/02588

(22) 国際出願日: 2001年3月28日 (28.03.2001)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:

特願2000-102049 2000年4月4日 (04.04.2000) JP

(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 出光石油
化学株式会社 (IDEMITSU PETROCHEMICAL CO.,
LTD.) [JP/JP]; 〒130-0015 東京都墨田区横網一丁目6
番1号 Tokyo (JP).

(74) 代理人: 大谷 保 (OHTANI, Tamotsu); 〒105-0001 東
京都港区虎ノ門3丁目8番27号 巴町アネックス2号館
4階 Tokyo (JP).

(81) 指定国 (国内): BR, CN, ID, IN, KR, SG, US.

(84) 指定国 (広域): ヨーロッパ特許 (AT, BE, CH, CY, DE,
DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE, TR).

添付公開書類:

— 国際調査報告書

[統葉有]

(54) Title: METHOD FOR PREPARING ACIDIC CATION EXCHANGE RESIN FIXED BED FOR PRODUCING BISPHENOLS

(54) 発明の名称: ビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法

(57) Abstract: A method for preparing an acidic cation exchange resin fixed bed for producing bisphenols, wherein an acidic cation exchange resin is partially neutralized homogeneously with a nitrogen-containing sulfur compound, characterized in that it comprises charging an acidic cation exchange resin into a reactor to form a fixed bed, washing the fixed bed with water prior to the start of the reaction, dissolving the nitrogen-containing sulfur compound in the wash water from the reactor, and charging the resultant aqueous solution to the reactor and circulating the solution. The method can be employed for preparing an acidic cation exchange resin fixed bed for producing bisphenols without the addition of an acid.

(57) 要約:

本発明のビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の
調製方法は、酸性陽イオン交換樹脂が含窒素硫黄化合物で均一に部
分中和されたビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床
の調製方法において、反応器に酸性陽イオン交換樹脂を充填し固定
床を形成させた後、反応開始前に、水で洗浄し、その流出した洗浄
水に含窒素硫黄化合物を溶解させた水溶液を該反応器に装入し、循
環させる調製方法であり、酸の添加を必要としないビスフェノール
類製造用陽イオン交換樹脂固定床の調製方法である。

WO 01/74488 A1



2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCT gazetteの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

明 紹 書

ビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法

技術分野

本発明は、ビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法に関し、さらに詳しくは、酸性陽イオン交換樹脂が含窒素硫黄化合物で均一に部分中和されたビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法に関する。

背景技術

ビスフェノール類、例えば2, 2-ビス(4-ヒドロキシフェニル)プロパン(以下、ビスフェノールAと略称する。)は、ポリカーボネート樹脂やポリアリレート樹脂などのエンジニアリングプラスチック、あるいはエポキシ樹脂などの原料として重要な化合物であることが知られており、近年その需要はますます増大する傾向にある。このビスフェノールAをはじめとするビスフェノール類は、触媒として酸性陽イオン交換樹脂(以下、単にイオン交換樹脂ともいう。)固定床を使用し、フェノール類とカルボニル化合物とを反応させて製造されることは公知である。また、その場合、ビスフェノールAを例に採れば、異性体である2-(2-ヒドロキシフェニル)-2-(4-ヒドロキシフェニル)プロパンの副生を抑えるために、イオン交換樹脂を含窒素硫黄化合物で均一に部分中和したものを触媒として使用することも知られており、その中和法としていろいろな方法が試みられている。

例えば、特公昭62-748号公報には、イオン交換樹脂固定床

中に塩酸を添加した液体を循環させる方法が開示されている。しかし、塩酸の使用により装置の腐食の問題がある。また、特開平8-40961号公報には、中和剤の含窒素硫黄化合物に芳香族スルホン酸類を添加する方法が開示されているが、芳香族スルホン酸類は腐食の問題はないが、イオン交換樹脂を水洗浄やフェノールで置換する場合、酸の切れが悪くなり、その結果反応開始時の製品の品質に悪影響を及ぼすという問題がある。したがって、酸の添加の必要のない中和方法が望まれていた。

発明の開示

本発明は、上記観点からなされたもので、酸の添加を必要としないビスフェノール類製造用陽イオン交換樹脂固定床の調製方法を提供することを目的とするものである。

本発明者らは鋭意研究を重ねた結果、反応器に酸性陽イオン交換樹脂を充填し固定床を形成させた後、反応開始前に、水で洗浄し、その流出した洗浄水に含窒素硫黄化合物を溶解させた水溶液を該反応器に装入し、循環させることにより、上記発明の目的を効果的に達成しうることを見出し本発明を完成させたものである。

すなわち、本発明の要旨は下記のとおりである。

1. 酸性陽イオン交換樹脂が含窒素硫黄化合物で均一に部分中和されたビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法において、反応器に酸性陽イオン交換樹脂を充填し固定床を形成させた後、反応開始前に、水で洗浄し、その流出した洗浄水に含窒素硫黄化合物を溶解させた水溶液を該反応器に装入し、循環させることを特徴とするビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法。

2. 酸性陽イオン交換樹脂がスルホン酸型陽イオン交換樹脂である前記1記載のビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法。

4. 含窒素硫黄化合物がメルカプトアルキルアミン類又はチアゾリジン類である前記1又は2に記載のビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法。

5. ビスフェノール類が2, 2-ビス(4-ヒドロキシフェニル)プロパンである前記1～3のいずれかに記載のビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法。

発明を実施するための最良の形態

以下に、本発明について詳細に説明する。

本発明において、ビスフェノール類は、フェノール類とカルボニル化合物とを反応させて製造される。

フェノール類は、水酸基に対してパラ位に置換基を有しないことが必要である。具体的には、フェノール、o-クレゾール、m-クレゾール、o-tert-ブチルフェノール、2, 6-キシレノール、2, 6-ジ-tert-ブチルフェノール等のアルキルフェノールやo-クロロフェノール、m-クロロフェノール、2, 6-ジクロロフェノール等のハロゲン化フェノールを挙げることができる。

カルボニル化合物としては、具体的には、アセトン、メチルエチルケトン、メチルイソブチルケトン、メチル-n-プロピルケトン、アセトフェノン、シクロヘキサン等のケトン類やホルマリン、アセトアルデヒド、ベンズアルデヒド等のアルデヒド類を挙げることができる。

好適には、本発明は、アセトンとフェノールを原料とするビス

フェノールAの製造に適用できる。

触媒として使用する酸性陽イオン交換樹脂は、スルホン酸系のものが好ましく、母体となる樹脂としては、スチレン-ジビニルベンゼン共重合体系、パーカルオロエチレン共重合体系、フェノール-ホルムアルデヒド重合体系等があるが、スチレン-ジビニルベンゼン共重合体系が好ましい。これらの樹脂はゲル型、ポーラス型どちらでも使用できるが、架橋度は、例えば、2～8%と比較的低いものが好ましい。この酸性陽イオン交換樹脂を、反応器に充填し固定床を形成させる。

本発明においては、反応器に酸性陽イオン交換樹脂を充填し固定床を形成させた後、反応開始前に、水で洗浄し、その流出した洗浄水に含窒素硫黄化合物を溶解させた水溶液を該反応器に装入し、循環させて、酸性陽イオン交換樹脂を該含窒素硫黄化合物で均一に部分中和する。

水での洗浄に使用される水の量は、水膨潤状態のイオン交換樹脂の容量の0.5～2倍が好適である。

次いで、流出した洗浄水に含窒素硫黄化合物を溶解させた水溶液を反応器に装入し、循環させるわけである。

上記の含窒素硫黄化合物としては、例えば、2-メルカプトエチルアミン、3-メルカプトブチルアミン等のメルカプトアルキルアミン類、2,2-ジメチルチアゾリジン、2-メチル-2-エチルチアゾリジン、シクロアルキルチアゾリジン、2-メチル-2-フェニルチアゾリジン、3-メチルチアゾリジン等のチアゾリジン類、1,4-アミノチオフェノール等のアミノチオフェノール類、3-メルカプトメチルピリジン、3-メルカプトエチルピリジン、4-メルカプトエチルピリジン等のメルカプトアルキルピリジン類

などを挙げることができるが、中でもメルカプトアルキルアミン類、チアゾリジン類が好ましい。該含窒素硫黄化合物の水溶液の濃度は、洗浄水に溶解させて、好ましくは1～10質量%にすればよく、全使用量は、酸性陽イオン交換樹脂中のスルホン酸基に対して好ましくは2～5.0モル%、より好ましくは5～30モル%である。

なお、含窒素硫黄化合物水溶液の循環は、イオン交換樹脂の所望の中和率となるまで行えばよい。

その所望の中和率は、2～5.0%、好ましくは5～30%である。この中和率が低すぎても、高すぎても充分な触媒活性を発揮することができない。

中和を行う温度については、室温でもよいし、あるいは30～100°Cに加温してもよい。100°Cを超えると、イオン交換樹脂のスルホン酸の脱離が激しくなり好ましくない。

本発明においては、洗浄水に含まれている酸が効果的に働いたと推定される。

次に、本発明を実施例により具体的に説明するが、これらの実施例になんら制限されるものではない。

〔実施例1〕

内径25mm、長さ20cmのガラスカラムに水膨潤状態のスルホン酸型陽イオン交換樹脂（三菱化学社製、ダイヤイオンSK-104）50ccを充填し、これに純水100ccを流通させた。この流出した水にジメチルチアゾリジンを1.4g溶解させ、イオン交換樹脂床に300cc/hrで装入、流出した液は循環させた。120時間循環させ、イオン交換樹脂を5分割で抜き出して中和率を調べた。その結果を第1表に示す。なお、中和率は下記の式で求めた。

$$\text{中和率 (\%)} = 100 \times \left[1 - \frac{\text{中和処理樹脂の酸当量 (meq./g)}}{\text{未処理樹脂の酸当量 (meq./g)}} \right]$$

(上式で、酸当量は水酸化ナトリウム水溶液を用いて滴定法で測定した。)

[比較例 1]

実施例 1において、流出した洗浄水の代わりに純水を使用したこと以外は同様に実施しイオン交換樹脂の中和率を求めた。その結果を第 1 表に示す。

第 1 表 中和率 (%)

イオン交換樹脂層の抜き出し位置	実施例 1	比較例 1
1 (上流側)	25	99
2	17	0
3	20	0
4	18	0
5 (下流側)	20	0

産業上の利用可能性

本発明によれば、酸の添加を必要としないビスフェノール類製造用陽イオン交換樹脂固定床の調製方法を提供することができる。

請求の範囲

1. 酸性陽イオン交換樹脂が含窒素硫黄化合物で均一に部分中和されたビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法において、反応器に酸性陽イオン交換樹脂を充填し固定床を形成させた後、反応開始前に、水で洗浄し、その流出した洗浄水に含窒素硫黄化合物を溶解させた水溶液を該反応器に装入し、循環させることを特徴とするビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法。
2. 酸性陽イオン交換樹脂がスルホン酸型陽イオン交換樹脂である請求の範囲第1項記載のビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法。
3. 含窒素硫黄化合物がメルカプトアルキルアミン類又はチアゾリジン類である請求の範囲第1項記載のビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法。
4. ビスフェノール類が2, 2-ビス(4-ヒドロキシフェニル)プロパンである請求の範囲第1項記載のビスフェノール類製造用酸性陽イオン交換樹脂固定床の調製方法。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP01/02588

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
 Int.Cl⁷ B01J49/00, C07C37/20, C07C39/16 // C07B61/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
 Int.Cl⁷ B01J39/00-49/02, B01J21/00-38/74, C07C1/00-409/44

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched
 Jitsuyo Shinan Koho 1926-1996 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2001
 Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2001 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2001

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP, 8-40961, A (Nippon Steel Chemical Co., Ltd.), 13 February, 1996 (13.02.96), Claims; Par. Nos. [0004] to [0013] (Family: none)	1-4
X	GB, 1539463, A (Shell Internationale Research Maatschappij B.V.), 31 January, 1979 (31.01.79), page 1, line 62 to page 3, line 117 & JP, 62-748, B column 3, line 37 to column 8, line 32 & DE, 2733537, A & NL, 7708222, A & FR, 2359640, A	1-4
A	JP, 6-304479, A (Chiyoda, Chem. Eng. & Constr. Co., Ltd.), 01 November, 1994 (01.11.94), Claims; Par. Nos. [0006], [0014]; Fig. 1 (Family: none)	1-4
A	JP, 6-296871, A (Chiyoda, Chem. Eng. & Constr. Co., Ltd.), 25 October, 1994 (25.10.94), Claims; Par. Nos. [0006], [0014]; Fig. 1 (Family: none)	1-4

 Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"E" earlier document but published on or after the international filing date	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	"&" document member of the same patent family
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search
20 June, 2001 (20.06.01)Date of mailing of the international search report
03 July, 2001 (03.07.01)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl' B01J 49/00, C07C37/20, C07C39/16 // C07B61/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl' B01J 39/00-49/02, B01J 21/00-38/74, C07C1/00-409/44

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1926-1996年

日本国公開実用新案公報 1971-2001年

日本国登録実用新案公報 1994-2001年

日本国実用新案登録公報 1996-2001年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番
X	JP, 8-40961, A, (新日鐵化学株式会社), 13. 2月. 1996(13. 02. 96), 特許請求の範囲, 段落0004-0013, (ファミリーなし)	1-4
X	GB, 1539463, A, (SHELL INTERNATIONALE RESEARCH MAATSCHAPPIJ B. V.), 31. 1月. 1979(31. 01. 79), 第1頁第62行-第3頁第117行, & JP, 62-748, B, 第3欄第37行-第8欄第32行 & DE, 2733537, A & NL, 77 08222, A & FR, 2359640, A	1-4

 C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であつて出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発見の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1.上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

20. 06. 01

国際調査報告の発送日

03.07.01

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (I.S.A./J.P.)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

目代 博茂

4D 963



電話番号 03-3581-1101 内線 3419

C (続き) 関連すると認められる文献		関連する 請求の範囲の番
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	
A	JP, 6-304479, A, (千代田化工建設株式会社), 1. 11月. 1994 (01. 11. 94), 特許請求の範囲, 段落0006, 0014, 図1, (ファミリーなし)	1-4
A	JP, 6-296871, A, (千代田化工建設株式会社), 25. 10月. 1994 (25. 10. 94), 特許請求の範囲, 段落0006, 0014, 図1, (ファミリーなし)	1-4